

1:1 神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、離散している十二部族にあいさつを送ります。

1:2 私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。

1:3 あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。

1:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。

1:5 あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。

1:6 ただし、少しも疑わずに、信じて求めなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。

1:7 その人は、主から何かをいただけると思ってはなりません。

1:8 そういふ人は二心を抱く者で、歩む道すべてにおいて心が定まっていないからです。

1:9 身分の低い兄弟は、自分が高められることを誇りとしなさい。

1:10 富んでいる人は、自分が低くされることを誇りとしなさい。富んでいる人は草の花のように過ぎ去って行くのです。

1:11 太陽が昇って炎熱をもたらすと、草を枯らしめます。すると花は落ち、美しい姿は失われます。そのように、富んでいる人も旅路の途中で消えて行くのです。

ヤコブ書では行いが強調されていると言うことができます。しかしそれは信仰よりも行いが大切であるとか、行いによって救われるということではありません。

ません。

パウロはエペソ書に、「2:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。2:9 行ないによるものではありません。だれも誇ることもないためです。2:10 私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」と書いています。

ですから信仰によって救われ、その救いによって良い行いができるということです。ヤコブもこの理解に立ち、行いのある生きた信仰を勧めているのです。

そこでヤコブはまず、試練に耐えて成長することを勧め、また知恵を求めることを勧め、そして神の価値観で人を見ることを勧めています。信仰によってそのような生き方ができるなら、私たちは良い行いへと導かれ易いのです。

試練、神の知恵、人を見る目に關して、みこころを求めつつ、自分の生き方や考え方を良いものにしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

